

の - す こうせつ

野生司香雪とサールナートの仏伝壁画

ご存知ですか？インドに日本人画家が描いたお釈迦様の壁画があることを



フォーラム ～参加費無料～

日時：2019年10月31日（木）開場：12：45

講演：13：15～15：30

懇親会：15：30～16：30

場所：インド大使館（裏面地図ご参照）

ヴィヴェーカーナダ文化センター（VCC）

定員：先着150名（10月25日締め切り）

事前申し込み・定員になり次第締め切ります。

降魔成道の図
提供：丸山勇氏

- 13：15 開演
- 13：20 ご挨拶：サンジェイ・クマール・ヴァルマ駐日インド大使閣下
- 13：25 ご挨拶：前田専學 東京大学名誉教授・中村元東方研究所 理事長
- 13：30 講演1：「タゴール・天心から香雪までの日印芸術家交流」 - 大木礼子 さくら市ミュージアム - 荒井寛方記念館学芸員
- 13：50 講演2：「野生司香雪の生涯と仏伝壁画」 - 溝渕茂樹 元徳島文理大学 非常勤講師
- 14：10 講演3：「初転法輪の地サールナートと香雪の仏伝壁画がインドで果たす役割」 - シッダールト・シン博士
インド大使館ヴィヴェーカーナダ文化センター所長（元パナラス・ヒンドゥー大学教養学部パリー語・仏教学科学科長）
- 14：30 講演4：「インド・サールナートの仏伝壁画保全作業について」 - 木島隆康 東京藝術大学 名誉教授
- 14：50 休憩（質問用紙）
- 15：00 質疑応答
- 15：20 閉会挨拶：生田要助 野生司香雪画伯顕彰会 会長 ※15：30～16：30 懇親会（軽食）@フォワイエ

主催：野生司香雪画伯顕彰会 共催：ディスカバーインディアクラブ（DIC） 後援：インド大使館、香川県、（公財）日印協会、（公財）中村元東方研究所、（公財）仏教伝道協会、（学）淑徳学園、（学）武蔵野大学 協力：（株）トラベルサライ、（有）彩色設計 特別協力：（公財）文化財保護・芸術研究助成財団

参加申込方法：裏面の申込書の記載事項をメールまたはFAXでお知らせください。

裏面をご覧ください。

主催者「野生司香雪画伯顕彰会」からのメッセージ

2500年ほど前にインドで興った仏教は、発祥の地インドで衰退しつつあった飛鳥時代（6世紀中期）に、百済を経由して日本に伝えられました。その後、現代に至るまで日本が仏教から享受し続けた恩恵は計り知れないものがあります。明治時代から日本人仏教者と交流のあったセイロン生まれのダルマパーラ居士によって始められたインドにおける仏教再興運動の中で、ガンジス川の古都ワラーナシ近郊の初転法輪の聖地、サルナートにムーラガンダ・クティ・ビハーラ（初転法輪寺）が建立されました。建立されたばかりの寺院に壁画を描いてほしいとの依頼が日本に伝えられ、派遣された野生司香雪は足掛け5年の歳月をかけ1936年に縦4m、長さ44mの仏伝壁画を完成させました。なぜ日本人画家がこの時代にインドで「釈尊一代記」の壁画を描くことになったのか、このフォーラムでは歴史の波間に忘れ去られようとしている日印文化交流の一隅に光を当てていただこうと思います。

この壁画は世界中から訪れる仏教徒や観光客に、お釈迦様の生涯を分かり易く語りかけ感動をもたらしています。今ではアジャンタの石窟寺院の壁画とともにサルナートの仏伝壁画として広く知られるようになりましたが、完成後80年以上経過した現在、壁画に剥落が生じるなど修繕手当をする時期を迎えています。何世紀にも亘りインドから受けた恩に報いようと精進・献身した画家・香雪と彼を支えた当時の日本人の思いを受け継ぎ、今般、東京藝術大学および故平山郁夫先生ゆかりの（公財）文化財保護・芸術研究助成財団の協力を得て、また（公財）仏教伝道協会はじめ関係機関の支援・後援により壁画保全事業が始まろうとしています。今回のフォーラムでは、これから3年の歳月をかけて進める保全計画についてもご報告いたします。



タゴールと香雪（コルカタ日本倶楽部）

後ろは大日本仏教連合会から託された梵鐘



インド大使館：

〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-2-11

Web: indembassy-tokyo.gov.in

交通機関：

地下鉄：半蔵門線、東西線、都営新宿線の

九段下駅 2番出口 から徒歩7～8分

注意：

大使館入場時に、身分証明書の提示や手荷物検査を実施することがあります。

大きなバッグは持ち込めません。

参加申込書： メールまたはFAXでお申込みください。楷書・ブロック体で全項目をご記入ください。

【DIC メール】 event@discoverindiaclub.org 【野生司香雪画伯顕彰会 FAX】 087-888-0836

*本フォーラム関連のお問い合わせについても、上記メールまたはFAX宛てにお送りください。

ご 芳 名 Name	
国 籍 Nationality	
所 属 先 Company/Organization	
電 話 (Telephone)	
メー ル (E-mail)	